



## リハビリテーション科の業務はリハビリのみにあらず！？

リハビリテーション科では、患者様・利用者様と直接関わるリハビリ以外の業務が、実は意外とあります。皆さんと直接の関わりは少ないけれども、大切な役割を果たしている業務である『係活動』について、今回紹介していきます。

### 係活動が始まった経緯・目的

目的：リハビリ科内で**スタッフが横断的に関わり、全員で業務を協力・分担**すること



- ① 意外と多い患者様・利用者様と関わる以外の業務・・・  
使用する物品の点検・補充、病院の委員会や会議、マニュアルの作成・更新、様々なカンファレンス、広報活動、新人教育、実習生指導・・・etc.
- ② リハビリ科の特徴として、医療部門と介護部門、それぞれで分かれて業務をすることが多く、スタッフ間の関係性が希薄になりがちであった。

### 4つの係の役割

様々な業務の必要性を検討し、現在は4つの係がある



**教育係**：勉強会や新人教育を通して**リハビリの質を向上させる**取り組みを行う

**業務改善係**：スタッフが**働きやすい職場**となるような取り組みを行う

**連携係**：科内での**医療-介護間の連携をサポート**、実習生の受け入れ等**病院外との連携**を行う

**総務係**：リハビリ科の**機器・設備の管理**を行う

### 実際の係活動の様子

2023. 12. 13 (水) **業務改善係**の係会開催 (月1回開催)  
定例で**ヒヤリハット件数や内容**が報告された後、今回は来年度に向けての**マニュアルの整備**について協議されました。  
感染対策1つとっても介護、医療それぞれの対策や方法があり、お互いの取り組みがヒントとなっていることもあり、真面目な話し合いですが、時に談笑する様子もみられ、全員で話し合いながら活動されていました！



このような係活動を通して――

**リハビリ科全体で協力し合う体制をつくり、業務の効率化やリハビリの質向上に取り組んでいます！**

## ■ 医療法人 関越中央病院

入院だけでなく外来リハにも対応しております。  
主治医にご相談ください。

### ▶ 施設基準

心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ  
脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ  
廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ  
運動器リハビリテーション料Ⅰ  
呼吸器リハビリテーション料Ⅰ  
がん患者リハビリテーション料  
摂食機能療法



病院リハ部門 主任  
丸山あすみ 松下知史

心臓リハ部門 主任  
津久井亮

## ■ 通所リハビリテーション関越中央

1~2時間の短時間通所リハ、6~7時間の長時間  
通所リハを行っております。  
相談員業務をリハ職が行うことにより、利用者様  
に合わせた最適なプランを提案させていただきます。

## ■ 訪問リハビリテーション関越中央

病院で急性期リハを学んだ職員が対応することで、  
心臓・呼吸に問題のある利用者様も安心してご利用  
頂けます。



介護リハ部門 主任  
狩野和子 田口裕一

空き状況	月	火	水	木	金
短時間型通所リハ 1クール 9:00~10:15	○	△	○	○	○
短時間型通所リハ 2クール 10:30~11:45	○	△	○ 11月より開始	○	△
長時間型通所リハ 9:00~15:15	○	○	○	○	○
訪問リハビリ 13:00~17:00	△	○	○	○	△

○：受け入れ可能 △：要相談 × 受入困難

〒370-3513 群馬県高崎市北原町71

TEL：027-373-5115 (代) FAX：027-372-2829

アドレス：reha@kan-etsu-hospital.com

### ひとことコラム 第52回

## 「よく噛んでゆっくり食べる」の効果

食べる速さが早く、飲み込むまでの咀嚼回数が少ないほど、体重やBMIが増加傾向にあるという事はよく聞かれる話であり、既にいくつかの研究グループが報告しています。

早食いが体重増加をもたらす要因には、「①早食いが過食をもたらすこと」、「②早食いが食後のエネルギー消費量である食事誘発性体熱産生量を減らすこと」、この2つが関与すると考えられています。ある研究では、固形食のみならず液状の食べ物であってもゆっくり味わい、**よく噛んで摂取することで、食事誘発性体熱産生量を増加させられること**が明らかになりました。その他にも、よく噛むことで口の機能が向上し言語がはっきり発音できるようになったり、消化酵素が多く分泌されて消化吸收を促進することで胃腸障害の予防になったりと多くの健康効果があります。今後は、食事する際にどのくらい噛んでいるか数えていき、「よく噛んでゆっくり食べる」を意識していきたいですね。実を言いますと、筆者の私自身も口に入れた瞬間、飲み込む癖があるので気を付けていきたいと思えます。